
地域日本語教室の5つの機能と研修プログラム

—豊かな学びと人間関係づくりを目指して—

野山 広／山辺真理子／簗野智紀／河北祐子／宮崎妙子
伊東祐郎

◇執筆協力 久保井康典
(上田市職員)

はじめに—本調査および本報告の概要—

近年、日本に在留する外国人住民は増加の一途を辿っており、多様な言語・文化背景を持つ人々や学習需要に対応した日本語教育や支援活動の充実を図ることの重要性も増してきている。

こうした中、日本語が母語ではない住民の増加や、地域の多文化化に応じて、日本語の学習需要も増大してきているわけだが、日本語を通じた交流活動や学習支援活動を通じて、共生のまちづくりをいかに展開していくか、ということは喫緊の課題である。

本研究は、その展開の充実に向けて、地域日本語教育プログラム作成の基礎資料を提供しようとするものである。そのため、2007年度は、主に地域の日本語教室の設立・運営に関する実態＝事例（秋田県能代市、愛媛県松山市、石川県金沢市などの日本語教室）に関する調査・分析および協働企画によるフォーラムの運営を、2008年度は、主に日本語ボランティア講座の企画・運営に関する協働実践（足立区、上田市などの入門講座、ステップアップ講座など）およびフォーラムの企画・運営を行った。

ここでは、この2年間の、地域日本語教育プログラムの充実へ向けた協働実践活動から見てきたことについてまとめたと思う。そこで、まず第1章で、野

山班のメンバーが2007年の結成以前から共通意識として持っていた「参加型学習」の基本理念や考え方に関して、触れておきたい。具体的には、地域日本語活動との関連で、「日本語教育との融合は可能か」「対等な人間関係づくりはできるのか」「日本語教育の呪縛からの解放は可能か」「日本語教育における開発教育の参加型学習とは」などについて、各メンバーの感想も交えながら論述し、地域日本語教育の現場の充実に向けた、その学習の可能性について言及したい。次に第2章において、2年間の協働実践研究活動からみえてきたものについて、地域の日本語教室という場が持っている5つの機能＝「居場所」「交流」「地域参加」「国際理解」「日本語学習」について考察する。その機能を踏まえた上で、地域日本語活動の具体的な取り組みについて取り上げ、多言語多文化化する地域住民の共生（意識）を支える活動の在り方について、「参加型学習」の観点から言及する。第3章では、先行研究を紹介しながら、地域の日本語教育における共通の役割を踏まえて、今後の地域日本語教室の在り方について展望する。第4章では東京都足立区における実践について、第5章では長野県上田市における実践について紹介する。そして、第6章では、研修プログラムの基本構成を述べたうえで今後の提言についてまとめる。